

年頭所感



新しい年を迎え、謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

昨年は、年度末に水産物消流に多少の混乱はあったものの、北海道沿岸漁業はこんぶ・ほたて貝・秋鮭など、順調な水揚げと堅調な価格推移をみせ、いかは一昨年に及ばなかったものの、いわし・さんまも漁に恵まれ、漁業者にとっては、「良い年」であったと受け止めております。

しかし、一方では、母船式鮭鱒漁業の操業方式の変更問題など国際漁業規制がますます強まる中で犠牲を強いられる漁業もあり厳しい一面がみられた年でもありました。

さらに、水産物の消流面では、円高の進行に伴ない輸入が激増し今や国内生産の動向のみで水産物価格が決められない状況となっており、私共の漁業経営も、広い世界経済の一環として、とらえなければ世界の動きに取り残されるということを一層実感させられた年でもありました。

さて、新しい年を迎えての展望ではありますが、増養殖への漁業者と関係者の努力が積み重ねられ、着実にその効果が現れている、こんぶ・ほたて貝・秋鮭については、余程の天変地異がない限り順調な生産が見込まれますが、このうち、とくに、ほたてについては、生産増と輸出減から消流に問題を残しており、浜を挙げての消流対策に努力しなければならぬと考えております。

よく、「一年の計は、元旦にあり」と言われますが、私の一年の計は、反省から始まります。真摯な反省があつて、その中から「何をなすべきか」という計画が生まれます。その綿密な計画を真剣に実行し、実行結果をまた反省することによって次の行動計画に結び付けていく。これが私の人生訓であります。

昨年を振り返ってみますと、いろいろな反省すべきことがあります。

再建後に向け

浜に何をすべきか行動する年

北海道漁業協同組合連合会

会長理事 石崎 喜太郎

例えば、こんぶやほたての浜値は、これでよいのだろうか。消費者にとって適正価格として受け入れられているのだろうか。消流停滞の原因は一体何なのだろうか等々反省してみます。ほたてについてみますと、年々増産に次ぐ増産が続けられていますが、値段は下がっていない。輸出が減っている中で、国内消費が伸びているし、伸ばそうという努力も関係者が一生懸命にやっておられる。しかし消費の増加以上の生産増がある。さて、これをどう解決するか。そうだ。計画生産と製品の計画仕向が必要だ。しかし、漁協の生産計画の何割も多い実際の生産があり、これが密かに売られて市況混乱の原因を作っている。漁業者対策は……。

このように果てしない反省が繰り返され、次の計画へとつながっていく。これが私の「一年の計」といってよいでしょう。

さて、本会の再建もこの年のうちに十年目に入ります。長いようで短く感じられる九年間でしたが、本年は再建達成後の本会が、浜に何をすべきかについて具体的行動を起こすべき年だと思っております。

本会の浜に果たすべき役割は、本道の水産物の消流円滑化にあり、本道産品のほとんどが東京等の大消費地で販売されていることから、消費地での販売対策が最も重要であります。このため、本年は首都圏における消費地流通加工施設を小規模ながら設置し、今後の消費地における販売対策の拠点としたいと考えております。

また、再建の柱として樹立し、いまだ実現をみていない市場の全面共販についても、再建後の協同運動を進めるに当たつての最重要事項ととらえ、推進して参りたいと存じております。

今年もまた、年の末には、皆さんが明るい笑顔で、一年の回顧と来年の展望を語り合えることを祈念して、新年の挨拶と致します。

